平成１８年度（２００６年度）

小中一貫教育カリキュラムに関する研究
社　会　科

箕面市では平成２０年度（2008年度）に小中一貫校として開校予定の止々呂美小・中学校を中心に全中学校校区で小中一貫教育を推進していこうとしている。今年度は社会科の小中一貫教育カリキュラムの研究を箕面市教育研究会の小学校社会科・中学校社会科部会に依頼し、合同部会で検討する形で研究を行った。

研究員

箕面市教育研究会

小学校社会科部会

中学校社会科部会

はじめに

本市においては、水と緑の健康都市（止々呂美地区）に、平成２０年度（2008年度）新設の施設一体型小中一貫校開校の予定で計画が進んでいる。これに伴い、止々呂美小・中学校では、平成１６年度，１７年度（2004年度、2005年度）「小中一貫教育推進事業」として研究に取り組み、教育センターの研究員制度でも小中一貫について研修を進めてきている。

今年度は、小中一貫教育カリキュラムの研究員を箕面市教育研究会小学校社会科部、中学校社会科部に委嘱し、合同部会で検討した。

Ⅰ　研究内容

1　研究テーマの設定について

本研究は、箕面市の小中一貫教育を進めるため、社会科において子どもたちが小学校の学習から中学校の学習へスムーズに移行できるように、教材配列や指導内容、指導方法などについて子どもの実態を出し合いながら、小学校と中学校の教職員が交流・検討することで、小中一貫カリキュラムの素案を作成することをテーマとした。

2　方法

小中合同交流会を２回行い、それをまとめた。

3　交流内容

- 小学校と中学校の教科書をお互い見合ながら検討
- 小学校と中学校のテストの比較
- 授業や生徒の実態交流
- 地理的分野に焦点を絞って共通する教材や資料について討議
- 反復して覚えたい基礎的事項は何か討議

Ⅱ　研究の結果

小学校と中学校の教科書の比較検討はお互いほとんど見たことがなかったのでたくさんの発見があった。特に文章記述は、中学校になると急激に難しくなり、漢字も多用されているので、小学校段階での漢字力や読解力のさらなる育成の必要があることがわかった。

小学校と中学校のテストを比較することで、中学校では解答用紙が別で資料の読み取る力を問われる問題が多いことがわかった。お互いのテストを比較し、学習の段差を低くする必要性を感じた。

上記のことや中学校の生徒の実態を交流する中で、小学校でつけておいてほしい基礎学力は何かを討議した。その中で、漢字を読み書きする力や数学的資料（グラフや表）を読み取る力が重要であることを話し合った。

小学校５年生や中学校の１年生で主に学習する地理的分野については、具体的に共通する

教材や資料などを抜き出した。それを社会科（地理的分野）の系統と関連を表にまとめた。（資料１）

小中の教員が学習内容の関連を理解し、指導の継続性を重視した学習指導の工夫ができれば、より効果的な学習ができると考えられる。

資料１　社会科（地理的分野）の系統と関連の表

	小学校				中学校			
学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年		第2学年	第3学年
内容	**わたしのまちや市** まちたんけん、絵地図、地図記号、身近な地域や箕面市の地形、土地利用、公共施設、交通の様子	**私たちの住んでいる** 箕面市の位置、大阪府の位置、主な産業、交通網の様子、主な都市の位置、府内の特色ある地域の人々のくらし、他地域や外国とのつながり		史跡・戦争・建築物・都市など地図上で確認することで、地図に関しみ、5年生と中学1年生とのつながりをもつ	**身近な地域** 地図の見方、地図記号、縮尺、地域調査	・箕面市、大阪府にふれる		
		・地図の見方 ・都道府県名、県庁所在地名をおさえる	**日本の自然と人々のくらし** 国土の形と位置、日本の領土の範囲、周辺にある国々、地形や気候の概要、寒かい沖縄県と寒い北海道宗谷地方の人々のくらし		**都道府県** 大阪府を含む3つの都道府県（岩手・福岡・東京）の地域的特色（自然環境、人口、産業、地域間での結びつき、生活・文化）			
			国土の環境を守る 公害の防止、森林のはたらき		**日本の姿** 日本の位置と領域、都道府県と地方、都道府県庁所在地、さまざまな地域区分、日本の縮地図	**さまざまな面からとらえた日本** **自然環境の特色** 地震や火山、山地と川、平野と海岸、気候帯、気候の特色、自然災害 **人口の特色** 人口密度、人口分布、人口変化、過疎・過密		
	店ではたらく人々のしごと 商店の様子、販売の工夫、他地域との関わり		**わたしたちの食生活と食料生産** わが国の主な食料生産地の分布、土地利用の特色、耕作をしている人々の工夫、水産業に従事している人々の工夫、運輸のはたらき、食料自給率と輸入			**資源や産業の特色** エネルギー資源や鉱物資源、エネルギー事情、工業、農業、林業・漁業、第3次産業		
	ものをつくる人々のしごと 原材料の入手、生産の工夫、働く人々の様子、他地域との関わり（農業・工業）		**工業の発達とわたしたちのくらし** 自動車工場で働く人の工夫や努力、工業の種類、工業地域の分布、貿易や運輸のはたらき			**地域間の結びつきの特色** 交通・通信網の発達と産業や地域の変化、高速道路や橋の開通と地域の変化 **生活・文化の特色** 生活の比較世界の中の文化、生活・文化の変化伝統的文化、特有な生活・文化		
			わたたちのくらしをささえる情報 通信と庶民生活、放送局で働く人の工夫や努力			**様々な特色を関連づけてみた日本** まとめ		
	社会科副読本〔わたしたちの箕面〕3～4年			**日本とのつながりの深い国々** 経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子（衣食住の特色・行事・学校生活・遊び・習慣）韓国・アメリカ・中国・ブラジル	**世界の国々の姿** 州と大陸、主な国々の名称と位置、世界の縮地図 **地球の姿** 大陸と海洋の分布、緯度と経度、時差、季節、地球儀と世界地図	**世界の国々** 3カ国（アメリカ・中国・フランス）の地域的特色（自然環境、人口、資源・産業、地域間の結びつき、生活・文化）		

広島県呉市立五番町小学校・二河小学校・二河中学校の資料を参考して作成

反復して覚えてほしい基礎的な事項については、都道府県名や国名が一番基礎なので、小学校４年生で出てくる時から白地図を活用し書き込んでいったり、県確認シートなどで日常的に場所を確認したりする習慣を学習に取り入れていくような作業をたくさん反復学習することで定着が図れると考えられる。（小学校段階）

・　テストの比較、小学校と中学校の比較をすることで学習の段差を低くする。

社会科の新しい語句も書き取り、反復させて定着を図ることの大切さが確認された。調べる楽しさを小学校で十分味わわせることで、中学校で学習する内容の多さにも意欲がつながるのではないかと思われる。

小学校中学校で共通して出てくる教材

○　県・県庁所在地

○　地図の経度・緯度

○　地図の割合・縮尺

○　日本とかかわりのある外国・首都

○　世界の区分（ヨーロッパ、アジアなど）

○　日本の山地、川の名前　位置

Ⅲ　研究のまとめ

成果

教科の内容について小学校と中学校の教員が顔を見合わせて交流し、意識や認識の違いを知り、また、大切にしていることなどを確認できたことはよかった。

箕面市で作成し３，４年生で活用されている社会科副読本「わたしたちの箕面」は中学校の社会科教員全員に配布されたので「身近な地域」の学習に活用することができた。

教科書も各学校１部ずつではあるが、来年度小学校に中学校の教科書、中学校に小学校の教科書が配布されることとなり、今年度の検討を発展させていくことができるようになった。

今後に向けて

①小学校中学校共通の白地図シート（県名や国名）の使用（教育センターのホームページを利用するなど）

歴史学習などにも活用し県名や国名の定着と知識の広がりを図っていく。

②基本的な語句の漢字書き取りワークシートなどを反復学習に利用する。

③小学校でなじみの深いところから入るなど、中学校の地理的分野の学習指導のあり方の検討が必要である。

おわりに

市教研の小学校と中学校の社会科の推進委員や部員がお互いの教科書を見合ったり、実態を交流したりして話し合えたことから学ぶことは大きく、小中一貫教育を進めていくことの必要性を感じた。

しかし、部会への参加は少なく残念であった。全市的に小中一貫に取り組むことを考えれば市教研活動に活発な参加が必要であると思われる。